

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2013”に7年連続出展

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景（82）－【女神天照大神誕生】－

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇環境展示会“エコプロダクツ2013”に7年連続出展

昨年の12月12日から14日までの3日間、エコプロダクツ2013（日本経済新聞社、(社)産業環境管理協会主催）が、東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年の出展者数は702社・団体、入場者数は、約17万人となりました。この内の約2万人が小中高校生ですが、今年は、天皇皇后両陛下のご行幸啓を賜り、出展社、来場者の環境への意識は例年にも増して高く感じられ、盛況のうちに会期を終えることができました。

ここで、ご来場頂けなかった方々へVEC/JPECブースと展示品を簡単にご紹介いたします。

今年もオール塩ビ製とし、白色の塩ビパイプで基本骨格を組み、各ユニットに波板や低発泡板、更にメッシュターポリンやクリアカラーの軟質塩ビなどを配し、明るく開放的なブースに仕上がりました。



正面左サイドでは、塩ビ製品の「長く使って、更に再利用。PVCは、省資源でエコな素材です」のタイトルで、43～53年間埋設管で長寿命を、パイプのリサイクル工程の展示でマテリアルリサイクルに適していることを示しました。また、被災地宮城で回収されたパイプを再生した「宮城パイプ」が復興に役立っていることも紹介しました。ライフラインを支える電線被覆材のコーナーでは、ワイヤーハーネスを展示し、自動車用途での耐久性を紹介しました。



右サイドでは、「PVCは、省エネで快適な住環境に貢献します」と題し、「住まい」に利用されるPVC製品を展示しました。外側には、樹脂サイディング及び樹脂サッシのカットサンプルで省エネに貢献することを、樹脂内窓及びクッションフロアはリフォームにも適することを、また、機能性壁紙として、PVCデザインアワード2012の特別賞の‘空気を洗う壁紙’、更には2012年のエコマークアワード銅賞のエコスは、ブース全体の床材としてもご提供いただき、建材用途のリサイクル性についても示しました。



ブース中央では、血液バッグや薬の包装PTPなど医療・健康分野などの様々な生活の場面で利用されているPVC製品を展示し、また、ブース奥では、「PVCの新しい展開」コーナーとして、PVCデザインアワード2013の大賞、優秀賞作品を中心に紹介しました。



昨年につづき、理科教育コンサルタントの小森栄治さん並びに小学校教諭でもある新牧賢三郎さんが、会場内エコツアーの「素材の力で未来を変える」というテーマで、当ブースを取り上げられました。“生活や社会を力強く支えているさまざまな「素材」。新素材や海外に広がる日本発の素材など、素材の可能性を再発見し、素材のすばらしさを実感いただくツアー”という企画ですが、まさに塩ビ素材の環境特性とそれを活かした製品がどのように使われているかなどを判り易く説明してくださいました。



より多くの方々にブース内を見学していただくため、クイズラリーを実施しました。今年は、ノベルティにPVC製のらせん入り縄跳びを用意しました。[PVCニュース](#)でも紹介したこの縄跳びは、昭和32年にPVC製なわとびを初めて製品化した(現) [ベルテック社様](#)が開発した内側にらせん状着色、外側が透明の二重構造となっており、ロングセラー商品で、TV番組でも紹介されています。年配の方に限らず高校生からも‘なつかしい’の声がありましたし、多くの方から‘これで健康になります’という言葉いただきました。



性は後世になると「斎内親王」と呼ばれるようになり、更に「斎王」と略称されるようになった。また、その居所を「斎王宮」更には「斎宮」と呼ぶようになったことから、いつしか斎宮が斎王を意味するようになった。この斎宮として、書紀には幾人かの女性の名前が挙がっているが、関連する記述も併せてまとめると次のようになる。

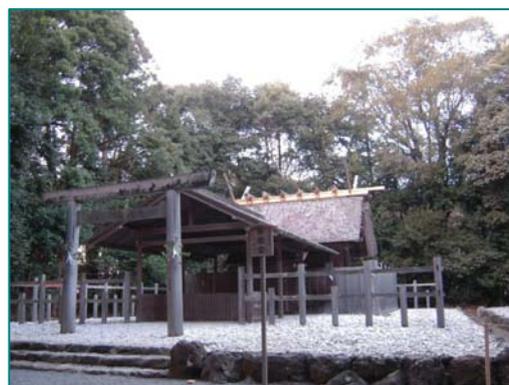
( ) は筆者の補足説明

崇神六年	豊鍬入姫	「天照大神を以て、豊鍬入姫命に託けまつりて、倭の笠縫邑に祭る」
垂仁二十五年	倭姫	「天照大神を豊耜入姫命より離ちまつりて、倭姫命に託けたまふ」
景行二十年	五百野皇女	「天照大神を祭らしむ」
雄略元年	栲幡姫皇女	「この皇女、伊勢大神の祠に侍り」 (この皇女は、後に湯人の廬城部連武彦に姦されたと讒言され、五十鈴川の辺で自殺する。三年条)
継体元年(五〇七)	荳角皇女	「是伊勢大神の祠に侍り」
欽明二年(五三三)	磐隈皇女	「初め伊勢大神に侍へ祀る。後に皇子茨城に姦されて解けぬ」
敏達七年(五七八)	菟道皇女	「伊勢の祠に侍らしむ。即ち、池辺皇子に姦されぬ。事顕れて解けぬ」
用明前紀(五八五)	酢香手姫皇女	「酢香手姫皇女を以て、伊勢神宮に拝して、日神の祀に奉らしむ」 (割注に「この皇女は、用明・崇峻・推古の三代、三十七年間に亘って斎宮を勤めた」とある。)
天武二年(六七三)	大来皇女	「大来皇女を天照太神宮に遣し侍らせむとして、泊瀬斎宮に居らしむ。是は先ず身を潔めて、稍に神に近づく所なり」 (この皇女は、天武三年十月に伊勢神宮に向かい、朱鳥元年十一月(六八六)に伊勢から還った。この朱鳥元年九月に天武天皇は崩御)

このように斎宮に関する記述を抜書きすると、きわめて重要なことが明らかとなってくる。それは、斎宮が仕え祀る神の名称である。崇神から景行までは「天照大神」となっているのに対し、雄略から欽明までは「伊勢大神」、用明時代は「日神」となっている。天武二年条では祭神名は明示されていないが、この時代の祭神が「天照大神」であることは間違いない。これに対し神社名は従来の「伊勢神宮」が「天照太神宮」に替わっている。このような伊勢神宮の祭神の変化を並べてみると次のようになる。

天照大神 ⇒ 伊勢大神 ⇒ 日神 ⇒ 天照大神

始めと終わりが「天照大神」になっているのが奇妙であるが、これは今まで述べてきたように、天照大神が誕生した七世紀になって崇神・景行時代の部分が付加されたことを示している。ではなぜ、雄略の時代になって「伊勢大神」と記述されるようになったのだろうか。それはこの名称が伊勢に遷座して祀られるようになった神の呼称だったからであろう。



倭姫宮：宇治山田駅の近くにある  
(内宮別宮、大正12年創建)

このことは雄略朝に初代倭王の御魂が遷座し、伊勢大神と称せられるようになったことを示していることになる。雄略朝の遷座はこれまでに、論証してきたところであるが、齋宮に関する記述からも証明されたことになる。

次に用明朝になって、伊勢の祭神が「日神」と替わるのは、従来「伊勢大神」と呼ばれた神が「日神」と呼ばれるようになったと考えるのが最も自然であろう。この時代、祭神本体を取り替える理由が全く無いからである。この日神への呼称変更は、用明天皇の前の敏達天皇時代に行なわれたものとみられる。それは伊勢への齋宮の派遣が用明天皇即位前紀に記されているからである。もし、用明時代に「日神」が誕生したのなら、この記述はもっと後になるはずだからである。先に【敏達天皇】の稿で日神は「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」の略称したことによると説明したのは、このような書紀の記述に基づくものである。

日神の後に「天照大神」が誕生する。大来皇女が仕えた神は、この天照大神のはずなのに、その名が何処にも出てこないのは不思議なことであるが、「天照太神宮」と書いたことで省略したと考えられる。この用語は天武元年六月二十六日条に「朝明郡の迹太川の辺りで天照太神を望拝したもう」とあるのと対応していると考えられる。この条は、壬申の乱の前段に当り、吉野から美濃へ急ぐ天武天皇が、四日市付近の朝明川の辺で伊勢神宮を望拝したとされる有名な行くだりである。このとき天皇が武運を祈ったであろう相手は「日神」だったはずであり、これが「天照太神」と表記されているのは、天武時代になって「天照大神」が誕生したことを意味している。当然、日神とは連続している。このことは天武天皇の望拝が保証していることになる。なお、書紀では敬意を表して「大」を「太」と書いているが、ここでは以後、特に区別する必要が無い場合は「大」と表記することにする。このように見てくると、伊勢大神、日神、天照大神は全て繋がっていることになる。従って、

伊勢大神 = 日神 = 天照大神

の関係が導かれる。これら三神は全て「初代倭王」即ち「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」を意味している。ここに女神の影はどこにも無い。神の名としては幾つかに別れているが全て男神である。

しかし、書紀において突然のように、女神天照大神が登場する。登場の仕方は堂々とではなく、こっそりと遠慮がちにである。要約すると

— イザナギ・イザナミ尊の間に日の神「大日おおひるめのむち靈貴」が誕生するが、一書によればこの神は「天照大神」と云い、更に「撞賢木巖之御魂 疎向津媛命つきさかきいつのみたまあまさかるむかつひめ」とも謂う。—

といった書き方である。

このような筋書きで女神天照大神は誕生した。しかも、この「撞賢木巖之御魂 疎向津媛命つきさかきいつのみたまあまさかるむかつひめ」の名が出てくるのは、書紀全体の中で神功皇后摂政前期の一回限りである。撰述者は女神であることを明確にすることを、何か躊躇しているのではないかとさえ感じられる記述である。その雰囲気はこの名称の中にも隠されている。それは最後の「媛命」である。古事記の中では、高貴な女性を表す語として「比売」「毘売」「日売」等が使用されているが、書紀ではこれが「姫」「媛」と表記され、最も高貴な女性に対しては一般に「姫」が使用されている。このような原則が確固たる書紀であるなら、「向津媛」はおかしいことになる。更に書紀の冒頭に、「至りて尊きをば尊と曰ふ、自余をば命と曰ふ」と注記してあり、同じ「ミコト」でも「尊」と「命」では格が違うのである。この原則は書紀の中で厳格に

適用されており、女神天照大神の最後に付けられた「命」は、最高神にしては如何にも不釣り合いなのである。

このように見てくるとこの箇所の記述に関して、撰述者更には書紀編纂者全体が、女神の誕生に諸手を挙げて賛成していたのではなかったらしい雰囲気が伝わってくる。このようにして女神は登場したが、この神はこれまでの男神天照大神とは全く異なった存在である。即ち、

天照大神 ≠ 女神天照大神

の関係にある。書紀は、最後の土壇場になって、男神天照大神を否定したことになる。なぜ女神が誕生したのかの論議は後で行なうが、結果的に、伊勢神宮の祭神は従来から祭祀されていた日神に替わって天照大神が誕生し、更にこれまでの経緯を否定する形で女神天照大神が生まれたことになる。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

皆様、メルマガご愛読ありがとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。昨年のビッグニュースは、なんとと言っても 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催決定でした。東京都では本年から開催に向けた予算取りと準備が開始されるようですが、インフラで貢献する塩ビ製品がリサイクル品も含め多く使用されるよう期待しています。また、そのために品質やリサイクル性能、コストバランスなど塩ビの良さを一層強くアピールしていく所存です。皆様も塩ビ製品をどうぞ宜しくお願いいたします。(ももった)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)